

平成24年度秋田県特別表彰

受 彰 者

余目地域活性化対策いきいき会議協議会(大仙市)
大正寺おけさ祭実行委員会(秋田市)
矢島カップMt. 鳥海バイシクルクラシック大会実行委員会(由利本荘市)

◎余目地域活性化対策いきいき会議協議会(会長 ^{かとう} ^{かいち} 加藤 加一)

< 事 績 >

- ① 平成16年から8年間活動。
- ② テーマごとに9つの委員会(花火実行委員会、ピオトープ委員会、ほたる観賞委員会、低農薬米作り委員会、里山活性化委員会、歴史委員会、休耕田利活用委員会、花いっぱい委員会、直売所委員会)を設置。
- ③ 余目の住民が持つそれぞれの特技を一戸一戸持ち寄り、地域資源を活かした活動を展開。
 - 直売所「eーかげん(いいかげん)な父ちゃん母ちゃんの店」の運営。
 - 農家民宿「ほたる亭」の運営。
 - 余目さくら花火観賞会の開催(4月下旬に余目公園)。
 - ホテル観賞会の開催(6月中旬から7月上旬)。
 - ピオトープの整備や保護活動によりホテルが住みよい環境づくりを推進。
 - 被災地への支援・交流。
 - 被災地支援をきっかけに、宮古市白浜地区との双方向交流を継続。

◎大正寺おけさ祭実行委員会(会長 ^{よこた} ^{のりまさ} 横田 徳正)

< 事 績 >

- ① 昭和59年から28年間活動。
- ② 地域から消え去ろうとしていたハイヤ節系民謡「大正寺おけさ」の復活を機に、その保存継承に努め、28年間にわたり「大正寺おけさまつり」を開催し、地域活性化に貢献。
- ③ “唄と踊りで地域興し”を図るため、皆が楽しめるように唄のアレンジや唄に合う踊りの創作を専門家に依頼。
- ④ 平成11年ハイヤサミットを開催し(全国6県から11団体参加)、その後も全国各地域との交流は継続・拡大。
- ⑤ 総踊り、花火大会など多彩なプログラム。老若男女が一体となって活動。県内外との交流の輪も年々拡大。観光客は1万人を超える。
- ⑥ 保・小・中の教育機関などとも連携。

◎矢島カップMt. 鳥海バイシクルクラシック大会実行委員会

(委員長 ^{すすき} ^{きよし} 鈴木 清)

< 事 績 >

- ① 平成14年から11年間活動(11回開催)。
 - 昭和62年に第1回が開催された。前身の「矢島町鳥海高原サイクルロードレース大会」からは今年が26回目。
- ② 平成14年の第16回大会を機に「おもてなしの心」で、全国からの多数の方々を迎えることに力を入れるため、実行委員会を立ち上げた。受付や競技における安全対策の立哨員、ゴールでのおしぼり配布、スイカや昼食の提供など、ボランティアが大会全般を支え、盛り上げに尽力。
- ③ 実行委員会の構成団体は観光協会、体育協会、商工会、交通指導隊、アマチュア無線クラブ、婦人会、JA女性部、たまぐら塾、矢島郵便局、やさい王国、JAエーコープ、総合支所の12団体。
- ④ 実行委員会の下支えにより、日本サイクリング協会が主催する全日本ヒルクライムシリーズ戦(全4戦、宮城蔵王、長野県美ヶ原高原、鳥海山、長野県乗鞍高原)の1つとなっており、日本トップクラスのアマチュア選手や元オリンピック選手など、本年は過去最高の1,457名がエントリー。